

院内トリアージの実施について

当院では、救急外来受診の患者さまへの来院後速やかな院内トリアージの実施に取り組んでおります。診察室へのお呼び出しが多少前後することがありますがご了承ください。

～ 院内トリアージとは ～

救急来院した時点で、患者さまの伏態を評価して、重症度や緊急度に応じて診療の優先順位を決めることです。

緊急度分類	疾患・症状	再評価時間
緊急度 1 critical emergent ただちに救命処置を必要とする状態	心停止、呼吸停止、上気道閉塞、多発外傷、バイタルサインの不安定な薬物中毒、喘息重積発作、てんかん重積、肺水腫、刺創、糖尿病性昏睡、苦悶を呈する胸痛、脳血管障害、ショックを伴う消化管出血、重度による熱傷、脊髄損傷、精神状態の急変、頭痛の突然発症で激しい場合と高熱を伴う場合、敗血症ショック、出血性ショック、アナフィラキシー反応、血流障害を伴う骨折など	0 分
緊急度 2 Urgent 可能なかぎり早く治療を開始する必要がある。緊急性はあるが生命を失うような危険は少ない状態	片頭痛、持続時間が1時間以内の頭痛、尿管結石、高熱を伴う小児、出血が止まらない鼻出血、喉頭蓋炎、激しい疼痛を伴う脱臼、起立性低血圧を伴わない性器出血、中等度のうっ血性心不全、バイタルサインが安定した苦悶様でない胸痛、アレルギー反応、血流障害のない骨折など	15 分以内
緊急度 3 Stable 症状が悪化する可能性の少ない状態。他に優先する患者がいれば待てる状態	変形のない単純骨折、止血されている裂傷、軽症の頭部外傷、軽症の熱傷、慢性頭痛、耳痛など	30 分以内
緊急度 4 non-urgent 緊急性がない。翌日にしかるべき専門科を受診してもよい状態	結膜炎、性感染症、月経痛、痔核、腰背部痛、咽頭痛、上気道炎など	60 分以内

【受診の流れ】

